

1. 意見

(別紙)

(意見)

「川」をおとして学習の場を。

昭和 30 年代の川は、泳ぐ・釣る・虫取り・炊事遠足等、特に夏休み期間中は子供達にとっては自然の中での遊戯場であった。

水がきれいであり、川の流れもゆるやかであり、遠浅であった。

特に「ジャカゴ」と「ジャカゴ」のすきまにカジカやどじょうを素もぐりで捕って昼食時に汁鍋の具材にして、石の「かまど」で炊事をし、帰りには川とんぼを捕って帰り、夏休みの自由研究にしたことが、なつかしい思い出である。今の子供達にも体験させてあげたい。

ここ近年は「天塩川リバーネット 21」の行事により水質調査や川の生物たちのことなど学習の場が出ているが、老若男女を問わず、楽しく気軽に参加ができ、水に触れ、川の恵み・水の大切さを昔ながらの技をもつて子供達に伝えられる川の活用を望む。

又、水道水や流雪溝をはじめ、生活圏のなかでの岩尾内ダムの恩恵が多々あるが、流域住民として解っているであろうか等。

昨年の春には防災センター「恵み」も開館しており、生涯学習の場としていただきたい。